

【会情報】

【会員企業ご訪問 : Vol. 152】

株式会社セミー工業（東大阪支部）

今回は西日本プラスチック東大阪支部会の株式会社セミー工業 代表取締役社長 黒田 真二様を訪ねました。

本社住所	大阪府東大阪市中石切町 6-3-54
電話	072-982-0800
FAX	072-982-0099
資本金	4,800 万円
法人設立	1964 年
設置 成形機	東洋機械金属製 4 台 日本製鋼所製 3 台 日精樹脂工業製 1 台 東芝機械製 1 台 50t~350t 計 9 台
その他 設備	・アニール(ナイロン樹脂成形品 強制吸水調湿装置) ・強制ガス除去装置 ・パッド印刷機 ・3D CAD ・3D モデリングマシン ・2次元・3次元測定器



代表取締役社長 黒田 真二 氏



本社外観

創業のきっかけと会社名の由来

先代社長の黒田治夫が勤めていた会社が倒産し、業務を引き継ぐ形で従業員 4 名により 1964 年にプラスチックの専門商社として創業したのがきっかけと聞いています。当時は商社としての業務をおこなっており、成形作業を開始したのは平成元年に現在の東大阪市に射出成形工場を建ててからです。

会社名の由来については以下 4 つの単語の頭文字を取ったと先代から伝え聞いています。

S : Service

E : Economy

M : Modern

I : Idea

自社の強みについて

当社では成形だけでは解決できない反りや寸法調整、強度不足の問題をアニール処理を活用し、多数の事例を解決してきました。

社内には一度で大量にアニール処理が可能な装置を設置しています。通常のアニール処理では、成形品が濡れてしまう為に水切り等の手間が生じたり、熱湯に浸す事により、急激に熱がかかり変形を起こしたりといったデメリットがありました。この装置はチャンバー内で高温多湿の空気を循環させてナイロン成形品に含水させるので、吸水のデメリットを回避した上での強度向上が可能となっています。最近ではホームページを見てアニール処理について相談したい、といった問い合わせも多くなっています。



数々の課題を解決してきたアニール装置

製造品について

最近では工業用パーツや家具部品、自動車部品、福祉用具や産業用機器の筐体や農機具パーツ、家電部品等といった受注型の製品だけでなく、自社製品の開発・製造にも力を入れています。自社製品には組み換え自由自在な収納家具であるキューブボックスα、フィギュアなどのコレクションケースであるJ-STAGE、F ケースシリーズ等があるのですが、これらはインターネットのECサイトを通じて顧客ニーズを拾いながらプラスチック設計の自由度を活かして考案・試作した結果、誕生したシリーズです。これらはamazon や楽天市場、Yahoo ショッピングなどのECサイトや自社オリジナルサイトで販売しています。



最大 12 段まで区切る事が可能な書類ケース

今後の方針・課題について

これまでのプラスチック部品加工事業と 7 年前に立ち上げたインテリア家具のインターネット通販事業のノウハウを組み合わせ、プラスチック成形を軸にしたオリジナル商品の開発をより一層進めていきたいと考えています。その為に、これまでは私が中心となって商品の考案や調査等をおこ



「鍵をなくした」との声が多かった事で誕生したダイヤル錠の小型収納BOX

なっていました。今期より開発課を新設しました。また、プラスチック成形だけでは開発に限界を感じたため、M&Aにより木製品などの海外調達ルートも確保しました。既に特許申請中の商品も出てきており、今後はインターネット通販以外の販路拡大も目指したいと考えています。

目標と取り組みについて

当社では「粗利額」の目標を部門ごとに設定しています。

加工部門であっても、ネット通販部門であっても「お客様の満足度」が高ければ自然に粗利額は高くなると考えているためです。その為にも高品質維持はもちろん、コストの削減にも社員一丸となって取り組んでいます。

協会への要望点

組合員も高齢化が進んできているように感じます。2代目、3代目の経営者がより積極的に参加できるような活動をお願いしたい。私自身もそうだったのですが、先代が所属していた団体や組織には何かとしがらみを感じて敬遠される若手経営者も多いのではないのでしょうか。今後も協会にはそれを超えてなお、「是非出席してみたい」と思えるような会合やセミナーの企画・開催を行って頂きたいと思います。

※ 会社を訪問して ※

自社製品開発に関して、コンプライアンスや個人情報などの取り扱いにより、金庫まで厳重でなくても施錠が必要な場合に役立つダイヤル錠の小型収納BOXなど「ありそうでなかったもの」や収集家がコレクションをより綺麗に、より設置しやすく、より安価に購入できるように考えられたケースなど「消費者側に立ったものづくり」で他社との差別化図っておられ、社員の方たちも自分たちで考えた商品が購入される喜びにより社内が活気に満ちていると感じました。

また、当初は各種会合への参加に乗り気ではなかったとお聞きし、その理由をお聞きした際は、同じ理由で会合等に出席されない方もおられそうだと感じました。黒田社長の場合は東大阪支部会の皆様のご支援、ご協力もあり、会合等にもよくご出席頂いているのですが、そういった不安要素を乗り越えて関心をお持ちいただけるようなセミナーや会合の開催を目指さなければならない、と改めて強く感じました。

◎ありがとうございました

取材：事務局 大野・山下

※本記事記載の情報については、2019年6月24日現在のものとなります。

掲載希望の方は

事務局(06-6538-6100)までご連絡ください。